

ひがしゆり

HIGASHIYURI

東由利町

2001

2

NO.551



ジョヤサ!
ジョヤサ!

五穀豊穰、家内安全

1 / 5 御嶽神社ぼんでん奉納

(関連記事13ページ)



町イメージ
キャラクター
「モウ太くん」

2001年 新春町政座談会

新春恒例の町政座談会が、1月4日から7つの町公民館分館主催で行われました。
座談会には町から町長と関係課長が出席し、町づくりと地域の課題について活発な意見交換が行われました。
各会場で話し合われたおもな内容について、以下に紹介します。

1月4日(木)

宿分館

(高瀬館：19名)



問 舟木地区下水道関連の水道整備を。

答 大琴地区の水量は十分であり、加入の方向で地区と検討。

問 流雪溝の水不足。

答 対策としてポンプアップ施設を設置している。自

然流水については地元の人
も認めるとおり無理である
と思われる。

問 携帯不感地帯解消を。

答 現在県内でも要望が殺
到しており様々な要因に基
づき順次整備されているが
順番的には当地区は厳し
い。また通信事業者が抱え
る維持管理コストの問題も
あり、実現の見通しは遠
い。

問 ISO取得推進を。

答 下水道整備や、リサイ
クル処理施

設など、各
分野におい
て取り組ん
でいく。

問 大琴小
統合後の利
用は。

答 統合後
も施設を利
用する方向
で検討。県
施設として
の利用など
模索してい
るが、地元
からも意見
をいただき
たい。

問 下郷分

1月5日(金)

袖山分館

(袖山館：13名)



校廃校後の通学支援を。

答 バス路線確保等に努力
するが、実費的支援につい
ては十分な検討を要する。

問 カンナ平下流の環境
対策を。

答 水質的には調査の結果
は基準をクリア。不安が解
消できるよう対応を検討。

問 高齢化に伴う清掃区
域の見直しを。

答 検討が必要と思ってい
るが、全町的な問題であり
検討に時間が必要。

問 直接払い制度につい
て説明を。

答 袖山地区は理
想的な取り組みと
なっている。交付
されるに当たり有
効な活用を。

問 小学校の未
来像は。

答 子供人口の動
向によるが、この
先十年ぐらいいは二
校でよい意味で刺
激を合せて頑張
って欲しい。

問 下郷分校の
廃校舎はどうな
るのか。

答 県の建物であ
る。使用は出来な
いと思われる。

1月5日(金)

法内分館

(克書センター…24名)

問 合併処理浄化槽についての説明を。

答 法内地区のうち、高村、中ノ沢についてについて対象。住宅密集の度合いに基づき、建設コストと管理コストのバランスによる選択が必要。

問 シルバー人材センターの見通しは。

答 平成十三年四月からの開始にむけて準備中。老人

クラブなどに説明をし、会員募集を図る。

問 公共施設等のバリアフリー化を。また町内2つの医院の段差解消等を。

答 今後設計される施設はバリアフリー構造となる。既存の施設についても改修を実施している。また診療施設についての意見ももっともでありお願いをしたい。町の助成なども検討してみる。

問 役場通信に月間カレンダーの掲載を。また月一回の発行にならないか。

答 広報に行事が載っているが、不足部分を検討。発行回数は、随時出される役場各課の情報を、週一回は今後ともお願いしたい。



1月7日(日)

住吉分館

(住吉館…24名)

問 ボツメキ水源の大吹川水道接続はどうなっているか。また保水のため広葉樹林保全を。

答 小ボツメキと一緒に発注し工事中。供給については少量のため心配ない。広葉樹林地帯は保安林指定と



なっており大切にする。

問 パークゴルフ場を東北大大会など、5月ころに

利用できないか。

答 芝の活着が条件。

問 入会権についてどう考えるか。

答 昭和三十六年に東由利町公有林野の造成管理に関する条例が制定されている。入会林地等はこれに基づいて取り扱っている。

問 ボツメキ付近の国有地を取得できないか。

答 払い下げは可能だが高額。官行造林を残してもらうよう努力している。

1月7日(日)

蔵分館

(大蔵館…40名)

問 国道西ノ浜、島間を追い越し規制できないか。

答 消雪後、公安をお願いする。

問 山内、大築間の大カーブの改良を。

答 地元からも数回にわたり陳情が出ており県でも理解している。国道107号の石沢道路、本荘道路、板戸工区の工事見通しがつけば着工のめどがつくと思われる。

問 横渡地内国道の凹凸の解消を。

答 県に要望している。

問 町の情報化対策は。

答 現在、役場通信と広

報ひがしゆりで情報を伝達している。防災無線放送については伝達不十分な地帯があ。E.T時代にふさわしい情報システムを模索している。

問 国際結婚の現状とその支援は。

答 国際結婚は増えている。自主交流できる組織を設立。補助としては結婚祝い金を交付している。



1月8日(月)

玉米分館

(玉米会館…31名)

問 将来の医師不足対策を。
答 心配していく。
問 町政座談会を年度内任意の日に開催できないか。
答 随時要請に応じる。
問 議会において複数議員から同じ質問が出るこ



とがあるが、時間短縮及

び日程調整できないか。
答 (副議長答弁) 通告制になっていて、他議員の質問はわからないようになってる。また一般質問の日程調整の方法はあり、その際は議会運営委員会の協議が必要。
問 メタダレ川の汚染について調査を。
答 県で調査実施したが、汚染については基準内であった。

1月8日(月)

老方分館

(老方館…47名)

問 警察署跡地と周辺の利用計画は。
答 現時点では計画はない。よい提案があれば寄せて欲しい。
問 役場用地の面積と跡地の利用は。また庁舎建設の今後の予定は。
答 用地は最低でも1・5ヘクタール、車庫等を考えて2ヘクタールは必要と考

える。跡地については今のところ具体案はない。ただし車庫等については当分現状の施設使用を予定。庁舎建設に関しては平成十二年度中に用地買収をし、平成十三年七月からお盆前ぐらいには工事発注を目指している。平成十四年度中には移転したい。
問 さらに老人施設の整備を。
答 既存の施設を、需要に応えられるよう、より効率的に有効



利用を図りたい。

役場新庁舎建設にかかる用地購入費等を補正

第一回議会臨時会

第一回議会臨時会が一月二十三日に招集され、庁舎建設関連の一般会計補正予算案と、介護保険関連条例の一部改正案が原案どおり可決されました。

■議案第一号 平成十二年度東由利町一般会計補正予算(第六号)

平成十二年度東由利町一般会計の歳入歳出予算にそれぞれ六千六百七十三万一千円を追加し、予算総額を

四十一億七千六百一十二万二千円としたもの。歳出補正予算の内訳は次のとおり。

▼新庁舎建設に関する調査設計委託料四百五十七万二千円▼事業認定調査作成委託料二百五十万円▼用地購入費五千九百五十四万円

■議案第二号 介護サービスに要する費用の徴収に関する条例の一部改正

別表文中に用語の定義を付け加え、介護保険法に規定する施設サービス利用者の食事負担額の一部を改めたもの。

12年産葉たばこ収納

二十一世紀の複合農業に期待

増田地区の平成十二年産葉たばこ収納が一月十五日から行われ、本町の葉たばこ収納が十五日から十七日までの三日間にわたって行われました。

米、和牛に続く生産額を持ち、本町の主要作物である葉たばこは、由利郡内で最も作付けが多く、品質においても県内で高い評価を得ています。

収納状況は、売上総額で約一億二千六百八十万円。夏の高温の影響で量目が減ったことにより、一〇アールあたりの代金は四十五万円あまりと昨年度を下回る結果になりました。米の明るい見通しが見えない農家にとって、複合経営の大事な柱となる葉たばこ。需要が安定した作物だけに、二十一世紀の農業にとっても今後の健闘が期待されます。

増田地区における今年の作付け面積は約一九五ヘクタール。本町の面積は約二八ヘクタールで、約一四パーセントを占めます。

平成十二年度の



▲次々に葉たばこが運び込まれる



▲検査員の評価を真剣な表情で見る

役場新庁舎建設予定地 「橋脇地区」に決定

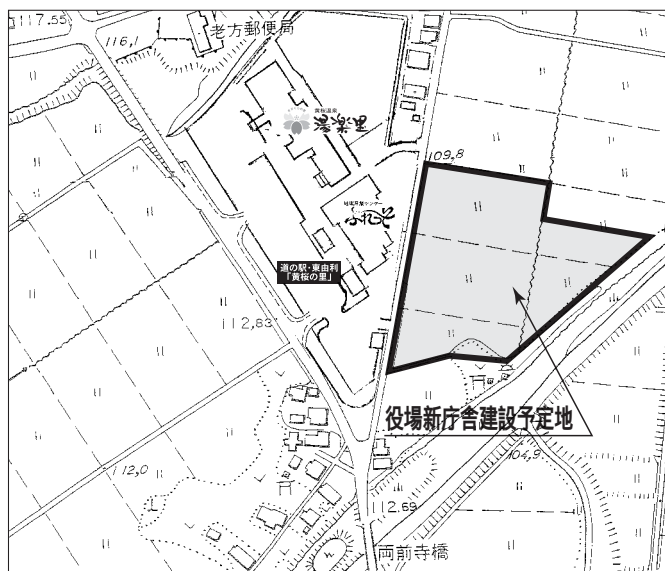
役場庁舎建設位置については、庁内に庁舎建設計画委員を設置し検討を進めておりましたが、昨年六月の町議会役場庁舎建設調査特別委員会の最終報告があり、町ではさらに広く町民の意見を聞くために、各種団体の代表、地区別・年齢別など各層からなる「東由利町21C町づくり検討会」を開催し、全町的な意見集約を図ってきました。

その結果、役場庁舎は町民全体の施設であり、高齢化や車社会の進展などを考慮し、町民にとって一番便利

な場所、国道から見える場所、建設経費が少ないことなどの意見が強く出され、最終選定案の二箇所（老方地区、橋脇地区）のうち「橋脇地区」が大多数でした。



▲建設予定地に決定した橋脇地区



町ではこうした経緯と、議会との現地踏査や協議結果などを踏まえ、建設位置を「橋脇地区」に決定し、一月十八日の議会全員協議会で表明したところ、この提案に多数の理解が示されました。その後町では、地権者の内諾を得たことにより、一月二十三日の第一回臨時議会に用地取得のための関係予算案を提出し議決されました。

なお、庁舎の建設は平成十三年度～十四年度の二ヶ年継続で行われる予定です。

町長日記

今年は暖冬であると言っ情報でしたが案に相違して寒い大雪の正月でした。特別豪雪地帯に指定されている我が町では、このくらいの雪を大雪とは言わず、少しもびつくりするものではありませんが、ふだん雪の降らない又は少雪地帯が大騒ぎになっております。何十年ぶりの降雪とのニュースを見ると、気の毒に思っ傍ら、雪国の難儀さが少々分かってもらえたかなと意地悪く思ったりしました。

しかし、ふだん降らない地方に雪が降ると、本当に大変なことになってしまいます。人がすべて怪我をしたり、自動車や電車が止まったりということになります。早く落ち着いた天気になってほしいものです。

我が町でも、慣れた雪とはいえ少々きつくなって来ました。高齢化比率が高いことですから、一人暮らしの老人世帯・高齢者世帯が多くなっておりますので、その方々の除雪が心配です。

町では社会福祉協議会に委託して、二人の除雪ヘルパーにその役割をお願いし、登録された皆さんに毎日見回りをしてもらっております。これも大雪が続きますと大変になって来ますので、いろいろな皆さんの手伝いもお願いしていかねければなりません。地域の皆さん、どうかよろしく願ひ致します。

道路除雪は万全です。「おらほの除雪は日本一だと評価されてる」と除雪のオペレーターの皆さんに言っ、頑張ってもらっています。朝七時まで一・一四キロの国道、県道、町道の除雪を完了する

するには、委託除雪、直営除雪とも早朝三時には起きだして作業にからなければなりません。大変な作業であります。限られた時間の中の作業にもなりませんので苦情もあります。「家の前に大量の雪をおいて行っ」とか、「向かい側と平等でない」とか、なかなか大変な作業です。そしてまた、それはもつともなことでもあります。それに対応しようとして懸命に努力をしていることですが、満点にはなかなか行かないことです。除雪機材の充実や除雪技術の向上も図り、もつともと水準を上げる努力もして行かなければなりません。もう少しの間お互い頑張りあっていい黄桜の春を迎えたいものです。

新春恒例の町政座談会は、七分館の役員の皆さんの協力をいただきながら終えることができました。今年も沢山の意見交換ができました。少子高齢化の心配、町村合併の行方、道路改良の見通し、低米価対策などの重い課題から身の回りの地域の問題まで、充実した意見交換ができました。予算の時期にもなりますので、『問題を整理し、精一杯課題に取り組める一年にして参ります』と申し上げたところであります。

二十一世紀も一カ月が過ぎました。一番きつい二月に入ります。この後半には、会場が東由利町と定番化した秋田県雪上野球大会に、あのタケシ軍団も参加し、テレビ放映もあるということですので楽しみです。

このひと月が過ぎると春はすぐです。精一杯健康に気をつけられて過こされま

体験はなによりの宝物

—— 晩秋の東由利から初夏のオーストラリアへ

研 修 行 程

日次	月 日	地 名	ス ケ ジ ュ ー ル
1	11 / 16 (木)	秋田空港 ↓ 羽田空港 ↓ 成田空港	秋田空港から空路、羽田空港へ バスで成田空港へ移動 空路シドニーへ (機中泊)
2	17 (金)	↓ シドニー ↓ アデレード	シドニーから乗り換え、空路アデレードへ アデレード市内見学 (アデレード泊)
3	18 (土)	アデレード	カンガルー島1日見学 (アデレード泊)
4	19 (日)	アデレード ↓ シドニー	アデレードから空路、シドニーへ シドニー市内見学 (シドニー泊)
5	20 (月)	シドニー	ホーンズビー・クーリング病院視察 シドニー市内見学 (シドニー泊)
6	21 (火)	シドニー ↓ 成田空港 ↓ 成田	空路成田空港へ(ケアンズ経由) バスでホテルへ移動 (成田泊)
7	22 (水)	成田 ↓ 羽田空港 ↓ 秋田空港	リムジンバスで羽田空港へ移動 空路秋田空港へ

四町村の仲間と一緒に

オーストラリアの福祉を学んだ旅

町民海外研修が今年も大内、南外、千畑と合同で実施されました。行程は十一月十六日から二十二日までの、帰国時成田泊を含めた七日間。東由利町からの四名を含む総勢十八名が、初夏のオーストラリアを訪れ福祉と現地事情の視察研修を行いました。以下に本町参加者四名の研修レポートを紹介します。

視点を变えて

小松 幸 生(寺田)

海外なんて自分には全く縁のないものだと思っていたし、まさか行く機会があるとは夢にも思っていませんでした。ただ正直なところ海外というものの、また、自分の未知なる世界というものの興味が全くなかったかといえはそれ

は嘘になるでしょう。少なからず海外への興味を持っていた私にとって、今回突然訪れたこの海外研修の機会は願ってもないものでした。今思い返せばあの一週間は様々なそして充実した研修をすることができた期間だったと思います。

一日目 秋甲、オセアニア大陸

十一月十六日、今にも雪が降り出しそうな曇空の下、四町村の海外研修参加者は秋田空港へ

と集合しました。この一週間に共にするメンバーは総勢十八名(十添乗員さん一名)実に様々な職業の方々であります。今回、福祉施設への訪問が研修のメインであるということから、介護・福祉関係の職に就いておられる方が多かったように思います。

成田での出国手続きも無難にこなし(?)いよいよオーストラリアへ出発です。朝には到着すること。無事に着いてほしい……そう思いながら機内での睡眠となりました。

二日目 記念すべき第一歩

昨日の願いが通じたのか朝無事にオーストラリアへ。その後飛行機を乗換え、今回の研修の第一目的地であるアデレードへと到着しました。機内ではあまり睡眠をとることができず到着してから行動はいささかきついものがありました。

さて、この旅行で一番の問題となったのが言葉です。出発前から「日本語はほとんど通じないし、かといって英語が話せる訳でもないし……」と思っていたのですがなにをする(したい)にも話せなければなりません。今回の研修で一番の問題であり、苦労したところでもあります。

二日目は観光等を無難にこなし、三日目以降のスケジュールに備え、就寝したのであります。

三日目 自然と野生動物の宝庫(カンガルー島)

本格的な日程はこれからと言ってもいいでし



今回の参加者、アデレードの街にて



記憶に新しいシドニーのオリンピックスタジアムの前で

をその罪人の労働力により切り開いていったものである、ということと同時に知り、この景観の歴史的奥深さのようなものを感じずにはいられませんでした。

オリンピック関連施設は、取り壊されているものもありましたが、それでもあのテレビで見ていた陸

よう。カンガルー島はアデレードよりセスナ機でおよそ三十分離れた場所にある様々な野生動物の宝庫です。コアラやカンガルーといったオーストラリア独特の動物たちがいる島でもあります。野生のアシカを間近で見ることのできる世界で唯一の場所、といわれる「シールベイ」や、波と風の浸食によってできたと言われる高さ30メートルにも及ぶ巨大奇石群の「リマーカブル・ロックス」、真っ青な絵の具をまいたかのような海岸「アドミラルズ・アーチ」等々、どれをとってみてもスケールが違い、またその自然の美しさには目を見張るものがありました。どこまでも広がる水平線、青く澄み渡った海、目に焼き付いて未だに離れません。カンガルー島への往復に乗ったセスナ機内での出来事もきくと忘れることはないでしょう(?)。

四日目 あれ感動と興奮をもつ一度

オリンピックやパラリンピックでの日本選手団の活躍が記憶に新しいところでもあるシドニー市内は、いたる所にスポーツの祭典の興奮醒めやらぬ、といった感がありました。

バスの中から見る景色は都会であるのにも関わらず、ごみごみした感じはなく、むしろどこか落ち着く感じさえしました。現地ガイドさんのお話によれば、道路から目につくところには洗濯物等は一切出しておかない決まりなのだとか。なるほど、確かに全く見あたりません。市民と行政が一体となってこの雰囲気を作り出しているのだなと改めて感じました。しかしこの景観も、十九世紀に、罪人の流刑地としての役目を持った時期、岩の固まりであったこの土地

上や水泳等の各種競技がこの場所で行われていたのかと思うと、あのときの興奮がよみがえってきたのであります。

五日目 福祉に対する姿勢

この日は今研修でのメインとも言えるホーンズビー・クリンガイ病院での研修・視察です。いざやってくる(本町ではもはや実際の問題となっているといっても過言ではないでしょう)高齢化社会に対応するために病院が中心となり、地域と一体となった医療保障サービスを展開しているとのことでした。

オーストラリアでは、子どもたちが両親と生涯に渡り同居するということはまずなく(日本的な家を継ぐ、といった考えがない模様)、ある程度の年齢になると独立するそうです。そのため一人暮らしの高齢者が増え、結果的にこういった生活援助等のサービスが必要になってくること、入院にしても手術やリハビリにしても、対象者や担当医、または全体でのコミュニケーションを十分に行い、その人に最も適した治療行為を決定、処置する。当たり前のことを確実に「行う」という最も基本的姿勢が徹底されていること等丁寧な説明をうかがった後、いよいよ院内の見学です。

院内には、高齢者の方々の姿が多く見受けられました。とはいっても病気で通院・入院している訳ではなく、この病院のボランティアとして働いているとのこと。そういえば、前日にオリンピック施設を見学していた際に、ガイドさんより説明がありました。「たくさんボランティアの方々により今回のオリンピック・パラリンピックは支えられていた(その数、数万人!)」ということ。日本とは違いボランティア活動というものが日常生活と密接に関係している、ごく普通に生活の中に存在している、この点は明らかに日本と違うところだなと感じました。将来的に高齢化社会はやってくるのだし、そうなったときこの病院や地域のような取り組み、相互扶助の精神といったものがより大切に



ホーンズビー・クリンガイ病院



病院内でボランティアを行う女性達

なるだろうと改めて思いました。

六日目 気温三〇 超・湿度九〇%以上!

ほとんど移動日であったため、飛行機の乗継につぐ乗継でいささかバテ気味のところに経由地ケアンズでの、この気温と湿度。さすがにこれはたまりません。ひとつの国で時差が二時間程度あり、気候帯も二つあるというこの国にも、あとわずかしが滞在できないのか、もつ少しいたいな、と大汗をかきながら思いました。

七日目 小夏の舞う秋田にて

この研修も秋田空港での解散式で終了です。わずかに一週間の研修ではありましたが、異国の文化や風習をこの目で見て、そして聞き、肌で感じたことは私の生涯において掛け替えのない経験となりました。と同時に日本の良さ、そして東由利町の良さを実感することができたのもまた事実です。「視点を変えて」...物事は一点から見るのではなく、多方面から見つめることが大切であるということ、この点を今研修で改めて学んだ気がします。秋田に着いたとき私たちは帰国を待っていたかのように小雪が舞ってました。その雪さえもどこか違った感じがしたのもそんな思いからかもしれません。

最後に、今回の海外研修への参加に際し、ご協力ご支援を頂いた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

海外研修に参加して

梅津 美穂(大塚)

十一月十六日(二十一日)の一週間四町村合同の海外研修に参加し、六千キロ南下したオーストラリアへと足を運んできました。参加する前は本当に海外にいけるのか不安と緊張でした。午後秋田を発ち羽田空港へ。そして成田空港からオーストラリアへと飛行機で飛び立ちました。飛行機に乗ることが初めてだった私はとても楽しみでした。約九時間半の夜のフライトのため機内泊でしたが、なかなか寝付けないうちにあたりは明るくなりオーストラリアへと到着しました。

一、二日目はシドニーより離れてアデレードを観光しました。空港へついた際は外は小雨が降っていたため、とても残念な気がしていましたが、場所を移動しているにつれ、あたりも天気がよく晴天になりました。気温はだいたい三十一度、長袖の服装では暑くていられないほどでした。最初に見た「グレートブルーポイント」。空と海の色がとても青く美しい海岸を見ることができました。外国の砂も直接手にしてみました。白くサラサラときれいでした。日本では今季節は初冬ですが、オーストラリアでは初夏でした。気温も高いため、海水浴を楽しんでいるという外国人の方々はとても気持ちよさそうでした。

カンガルー島の見学ではアデレード市内よりセスナ機約三十分の移動でした。最初に訪れた所が「シールベイ自然保護区」。世界で唯一野生のアシカをそばに近寄り見ることができると言われていた。メスのアシカは三日間海に出た後、三日間砂浜で休息の繰り返しで、短い時間子どもたちのアシカ達と過ごすらしく、浜で待っている子どもたちのアシカもさみしそうでかわいそうでした。カンガルー島でカンガルーがみられるだろうと楽しみに待ったところ、夜行性のため見られずに終わりました。コアラも直接抱けると一番よかったのですが、抱くことは一切できず

あこがれのオペラハウスをバックに



だ口を開けて見ていた気がします。

三、四日目はシドニー市内の見学でした。今年オリンピック会場となった会場前にも立ち寄りました。開会式、閉会式が行われたスタジアム十一万人収容できる会場を外から見学しました。非常時の際には約二十分で全員が避難できる造りをしていると聞きビックリしました。また、高橋尚子選手が優勝したマラソンコースを少し見ました。テレビなどでしか見るのができなかつたハーバーブリッジや白い帆船をイメージして建てられたオペラ・ハウス。実際見て異国地をふんでいると実感しました。

オーストラリアでは食事も体験しました。パイクング形式が多かつた気がします。お肉類もしっかり口にして来ましたが、全体的にあつさりとしていると思いました。お肉も食事もやっぱり日本で食べている物がいじしく食べることでできると感じさせられました。ドルでのショッピングは日本円に換算して悩みながら勉強しました。

今回研修の一番の目的、福祉事情ということで、ホーンズビー・クリンガイ病院を訪ね、リハビリテーションおよび高齢者ケアについて視察してきました。日本の病院とは異なり病院内が離れて建てられているのがとても印象強かつたです。日本の方より看護婦さんは多いらしくビックリしました。

入院の際は退院の予定をはっきり決め、その期間療養し治していくそうです。日本では医師の診断で行動するのに対し、診療療法士の診断で行動できるそうです。退院後のシステムも病院内の援助はいらず、「家庭介護サービス」を受けられることができるそうです。

病院ではボランティアで、「ピンククレディ介護」と呼ばれている介護サービスがあり、七十歳くらいの方々が花を生けたりとボランティアをしているところに出会いました。また、高齢者の方でも食事の配達サービスを車で配達して

いる事を聞き、驚きました。私のイメージでは勤めている方が配達して各家にサービスしているイメージがとて大きかつたし、老人の方は老人の方へボランティアで活動していることを聞き、生き甲斐をもっているらしいと思えました。日用品などでベット・いすなど自宅で不自由なされている方へ家具の貸し出しをしているとのことでした。高齢者の多い東由利町内でもこんなシステムがあれば助かります。

海外研修最終日の夜、食事を終え一行はホテル内に到着しました。しかし、ホテル内はキャンドルナイト。実は夕方からの停電のためでした。エレベーターも使えず六階に部屋があった私たちはもちろん階段で上がりましたが、九階に部屋のある方はとてもかわいそうでした。旅先でのキャンドルナイトはともきれいで思い出が作れました。

今回一週間の研修に参加して異国の空気や大自然を感じ、文化や社会について少しでも知り学ぶことができました。住みなれている東由利町とは何か違いましたし、今まで以上に視野が大きくなれた気がします。また他町村の方々と交流することもできたので、この出会いを大切にしたいものです。言葉ではなかなかうまくいい表せませんが、今回参加してよかつたです。ありがとうございました。

多くの体験より

工藤 智恵(野田)

初めての海外、初めてのオーストラリア、どんなことが起こってもおかしくない一週間。持ち物や衣類に気をとられて、海外旅行にもっと大切な英会話や現地の情報収集を疎かにしてしまい、旅の始まりは上々とはいえませんでした。

「日本じゃない」と初めに思ったのはオーストラリア行きのカンタス航空に搭乗した時でした。客室乗務員はほぼ男性で、顔から見た国籍も様々。後に現地ガイドさんからの説明で、力仕事に立ち仕事、それが長時間にわたるこの仕

ハーバーブリッジが見える港で

事、オーストラリアでは男性がするものと相場が決まっているそうです。現地国内線に搭乗したときもそうでした。

初日、アデレード(オーストラリア五番目の規模)。バスに乗っての市内観光。一般の民家はほぼ一定の大きさでレンガや石造りの平屋建て。家の大きさと同じかそれ以上の庭をもっている。家の脇に大きな木が植えられていて敷地の周囲は植木だつたり、フラッシュフェンスと呼ばれる南オーストラリア特有のフェンスで仕切られていました。そのような家が並び、広い道路と共に区画整理された町並みが続きます。道路の中央分離帯も車が二台は走れそうなくらい広く木や植物、芝が植えられています。たくさん家があるのに、たくさん緑もある。ゆつくりとした間隔、満喫、満喫、満喫、満喫、満喫。

向かう先はブレネルグ海岸。南オーストラリア海岸最初の移民二百六十九名を乗せたイギリスの黒船ハツファロー号が一八三六年たどりついた地。歴史の浅いオーストラリアの歴史が始まった所。日本海岸とも太平洋岸ともまるで違う海岸。青い海と白い浜、桟橋、絵葉書のようなでした。

二日目、アデレードからセサナで十分の大自然と野生動物の宝島と呼ばれるカンガルー島。人口が四千五百人に対して羊が百万匹。カンガルーはというと車に轢かれていた一匹にしかお目にかかれませんでした。

カンガルー島の浜辺



これはこの研修旅行一番の残念なことでした。しかし、羊とコアラと野生の南アシカにはたくさんあつたことができました。そして、本当に大自然！。遠くから見るとラクダに見えるリマールカプル・ロック。花崗岩の巨大な奇岩群で周辺の景色と共に絶景でした。満喫、満喫、満喫、満喫、満喫。



三日目、シドニー。バスの中からの市内観光をしながら、終わったばかりのオリンピック会場へ。開・閉会式場、水泳、野球、柔道の会場を外観から見ることができました。もちろん初の生オリンピック会場でした。テレビで見ていたものが目の前に。会場までの道にはマラソンコースの青いラインが今でもくっきりと。記録と記憶に残るたたかいが繰り広げられた。そんな異国の地に自分がいることが不思議でした。

四日目、ホーンズビー・クリンガイ・ホスピタル訪問。シドニー北部のホーンズビー地区とクリンガイ地区のヘルスサービス施設で、ホスピタル(病院)とはいふものの、平均在院日数は五日ほどの高齢者や障害者を再出発させるようなところ。

高齢者ケア評価チーム(医師、看護婦、ソーシャルワーカー、作業療法士、医学療法士、事務職員)があり、自宅介護やホステル、ナースングホームに入居を考えている高齢者、障害者に対して、評価・情報・助言・援助を提供したり、それぞれの専門分野で、その人に必要なものの、依頼されたことを提供します。例えばお風呂の安全性についての評価は作業療法士に、移動動作の評価については理学療法士に割り振られます。評価や家庭訪問は患者と介護者や家族と相談して行われるそうです。できることは、自分でそして自宅で、そのために必要なケアや補助健康器具は無料で貸与するのです。

医療サービスの他に日常生活援助として家事援助や配食サービスがあり、それらは全てボランティアが給仕します。そのためたくさんのボランティアがいて、その多くが定年をむかえた

オペラハウスから臨む シドニーの高層ビル



高齢者たそうです。これもオーストラリアのお国柄で、ボランティア精神が旺盛なのです。そのため仕事を終えて退職してからのほうが大忙し。することがないならボランティアをする、がオーストラリア流なのです。(オリンピッククでのボランティアも四〜五万人いたそうです)介護されるのも年配者なら、介護するのも年配者、七

十歳でピンク色の制服を着たおばあちゃん(ピンククレディ)も施設内で色々な給仕のお仕事を楽しんでるようでした。国が違えば福祉も違うのは当然と思いながら、老後はオーストラリアのような環境が理想ではないかと思いました。

あつという間の一週間。結団式での言葉「森に行つて森を見ず」ということのないように」を念頭に、私なりに貪欲にこの海外研修を満喫してきました。ジャカラントの紫色の綺麗な花が至るところに咲いていました。オージービフには三日目にしてやっとお目にかれました。千畑、大内、南外の皆さんとも仲良くなれました。同町内の方ともより親しくなりました。

この海外研修が今回で十回目をむかえ、そして最後と聞きとても残念に思います。もっとたくさんの人にこのような研修を体験して欲しいと思います。そして再度この研修に参加するために多大な協力をしてくれた方々に感謝したいです。

異文化にふれて

高沢 稔(黒瀬)

11月16日

初めての海外ということもあってなのか、目覚まし時計のなる前に起きてしまった。前日からの長期外泊の準備もなんとかこなして迎えるのを待つ。同町のメンバーと一緒に秋田空港に向かい、他三町村のメンバーと空港で合流。二回目の対面となった。正直なところ人見知りを

する自分にとってほとんどが面識のない方ばかりの研修で大丈夫なのだろうかという不安も感じたが、その不安も今思えば徒労に終わったなと改めて感じる。

生まれて初めての飛行機に乗り、羽田に向かう中、耳鳴りに苦しみどうなるかと思つたが解消の仕方を教えてもらいほつとした。スケジュールを見た限りでは、ある程度の余裕があると思われた初日は、何かとばたばたしていて全く休む暇がなかった。初めてつくしの初日の終わりは機内泊。眠れない。

11月17日

慣れている人でも疲れるのではないかと思われる長時間機内滞在がやっと終わり、オーストラリアの地に降りた。初めての海外という喜び以前に、風呂に入れなかったという不快感と十分にとることのできなかった睡眠によって疲れていた。一緒に行った方も同様のようで、ツアーコンダクターの太田さんは元気に説明をこなすのだが、聞いている方に覇気がない。とりあえず、来たからにはいろいろな経験をし、吸収しようと考えていた自分に少々喝を入れ、二日目の始まりだ。

着いて早々思つたことなのだが、この国は煙草についてかなり敏感なようで、屋内で吸える所はないのではないかと感じるくらい禁煙だからである。秋田から出発して以来、自称愛煙家である私にとって、これ以上は辛い。長い空港の通路を通り出口脇の灰皿をやつとの思いで見つけ吸う事ができた。あまりのおいしさに感激してしまつた。

シドニーに到着し空港から国内線に向かつてバスで移動自分の足で周りをゆつくり見回しながら歩きたいという気持ち強いのだが初めから終わりまでスケジュールが詰まっているようなので次の機会にしておこう。飛行機を乗り継ぎアデレード



初めてだらけの旅は感動いっぱい

アデレード2日目、履いてきた靴が歩きにくいため朝早くに起き、ホテル隣のスーパーに靴購入のために向かった。入つてはみたものの、食品売り場と生活用品売り場が隔てられていて行き来することができないレイアウトになっていて、入口と出口も違い、入る時は簡単だが、レジを通過しないと出ることができないことが後で分かった。その場合は仕方がないのでミネラルウォーターとさして必要でもないボールペンセットを購入し、店を出ることができた。万引き対策なのだろうかは分からないが、日本は平和な国であることがスーパーを見ることで感じる事ができる

に着いた。シドニーは雨模様だったが、アデレードは正反對の快晴で気温は34℃を示していた。ここに着くまでは、東由利を出てきたままの厚着のままであったがとても耐えられず、上着を脱ぎ長袖のTシャツを腕まくりして暑さを凌ぐ。それにしても暑い。現地案内人の方に聞いたところによると、シドニーとアデレードの天候は正反對になることが多いようで現地人にとっては当たり前のことのようだった。

バスに乗り、海に着いた。雲一つない空、エメラルドブルーの透き通るような海、開放感にあふれた海岸の風景とそれにマッチした広々とした町並み、どれをとっても文句のつけようのない景色である。アデレードではかなり有名な場所であるのか、とにかく人が多い。かなりの割合で現地の人が多いしみんな一様に天気の良い海岸で楽しんでいるようだが、オーストラリアでも本日は平日なのではないのだろうか。ピデオを撮つていると高校生なのか大学生なのか分からないが、大勢の学生に声をかけられた。笑つて返すしかなかったが、とてもフレンドリーな雰囲気感激した。日本人にはない感覚のように思ふ。

11月18日

アデレード2日目、履いてきた靴が歩きにくいため朝早くに起き、ホテル隣のスーパーに靴購入のために向かった。入つてはみたものの、食品売り場と生活用品売り場が隔てられていて行き来することができないレイアウトになっていて、入口と出口も違い、入る時は簡単だが、レジを通過しないと出ることができないことが後で分かった。その場合は仕方がないのでミネラルウォーターとさして必要でもないボールペンセットを購入し、店を出ることができた。万引き対策なのだろうかは分からないが、日本は平和な国であることがスーパーを見ることで感じる事ができる

アデレード2日目、履いてきた靴が歩きにくいため朝早くに起き、ホテル隣のスーパーに靴購入のために向かった。入つてはみたものの、食品売り場と生活用品売り場が隔てられていて行き来することができないレイアウトになっていて、入口と出口も違い、入る時は簡単だが、レジを通過しないと出ることができないことが後で分かった。その場合は仕方がないのでミネラルウォーターとさして必要でもないボールペンセットを購入し、店を出ることができた。万引き対策なのだろうかは分からないが、日本は平和な国であることがスーパーを見ることで感じる事ができる

とは思わなかった。その後セスナに乗りカンガル島という所まで行き、野生のアシカやコアラを見物した。セスナの古さに驚いたのだがコクビットにガムテープが貼られていたのは正直な所怖かつた。

11月19日

アデレードに別れを告げシドニーにむかった。オリンピックスタジアムを見物しマラソン目印のブルーラインを見た。テレビで見ていた場所が目の前にある。感慨深い。

11月20日

福祉については今まで仕事でも関わった事がなかったで詳しくは分からないが、病院施設を視察した。施設で従事している職員の方はお医者さんを初め患者さんとの密接な関係を築き上げていて、信頼関係の上に成り立っていることがよく分かった。この病院は福祉施設としての機能も兼ねていて、高齢者に対する家庭介護等にも力を入れていた。高齢者ケアにおいてはボランティアの方の協力体制が整つていて、病院の方もボランティアの方がいなければ、もはや運営が成り立たないところまで来ているという事だった。

はたして日本でこのような体制を築くことができるのであろうかと、オーストラリアの福祉事情の充実ぶりに感激を抱きながらも将来の日本の福祉に一抹の不安を抱いた。行政が理解される制度を構築していくかなければならないのは当然の事であるが、一般の方々の前向きな気持ちと協力体制がなければ、これから更に世界にも例を見ないような高齢化社会に突入していく日本にすばらしい未来は拓けないのではないのだろうか。

シドニーの街角



団員が一堂に会し新年の無火災祈願

平成十三年 消防出初式

ていました。

一月六日、恒例の消防出初式がげんき館で行われ、畠山勉団長をはじめ消防団員、婦人消防隊員、本荘消防署東由利分署の署員など約百八十名が参列しました。

式では、無火災を祈願したくす玉が割られ、君が代を斉唱したあと、町長を先頭に団長来賓の観閲が行われ、各団が期待にこたえるかのように気を引き締め、観閲に敬礼をし

観閲のあとには、表彰と感謝状贈呈が行われ、永年勤続した団員や模範団員が表彰を受け、退職団員と消防施設用地協力者には町長から感謝状が贈られました。

式の終盤には、受賞者を代表して二十五年勤続表彰を受けた阿部副団長が、「榮譽ある表彰を受け感激を新たに使命の重大さを痛感し、今後団長を中心として一致団結し、消防精神の高揚に務め町民の生命財産を守るため一層の精進を誓う」と答辞を述べると、

参加者一同が無

火災を祈願し万歳三唱をして式を閉じました。

有事の際には、消防署員や消防団員の消火活動の技術や早

さが向上することと大切ですが、何よりも住民みんなが互いに気をつけ普

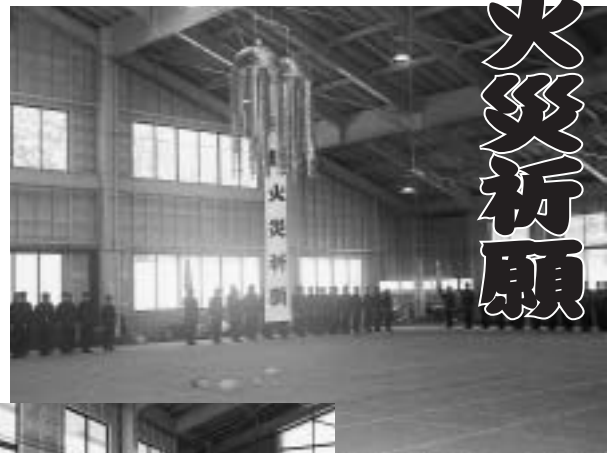
段から火災の予防に努めることが大事大切です。



▲石綿副団長の号令のもと全団員が敬礼

受賞者名簿（敬称略）

秋田県知事表彰				
25年勤続表彰	副団長	阿部陽	悦雄彦	
20年勤続表彰	第4分団 副分団長	石渡	次安	
	第5分団 副分団長	佐々木		
秋田県消防協会会長表彰				
勤続章（15年）	第1分団	部長 長谷山	肇雄	
	"	班長 佐藤	太智	
	第2分団	部長 長谷山	満浩	
	"	団員 莊野山	和正	
	第3分団	団員 畠山	利宏	
精勤章（10年）	第1分団	団員 渡辺	久宏	
	第2分団	" 小野	清興	
	第4分団	" 藤木	直志	
	第5分団	" 佐々木	志明	
	第5分団	" 小野	正裕	
	第5分団	" 小野		
東由利町長表彰				
模範団員	第1分団	団員 鎌田	敏功	
	第4分団	" 藤	幸尚	
	"	" 遠藤	弘宏	
	第5分団	" 大庭		
東由利町消防団長表彰				
甲種精勤章	第5分団	団員 遠藤	正良	人
	"	" 佐々木	良一	
乙種精勤章	第3分団	団員 畠山	英成	吉
	"	" 畠山	成哲	春
	第5分団	" 小松	哲清	也
	"	" 阿部		隆
東由利町長感謝状				
退職団員	前分団長	小松俊	一悦	
	"	畠山金	作二	
	前部長	遠藤富	寛一	
	前団員	阿部山	忍浩	
	"	畠山部	幸時	
	"	阿部木		
消防施設用地協力者	舟木大	庭		



▲無火災祈願のくす玉が会場に垂れ下がる



▲町長来賓の観閲に気が引き締まる



所得税・町県民税の申告相談が始まります



【事業を営んでいる人（不動産貸し付けを含みます）】

【給与収入や年金収入のある人】
源泉徴収票（給与・公的年金）

【農家】
所得標準で申告する中、小規模農家
農業事前調査

申告に必要な書類など
申告相談には次の書類が必要で

収入、経費が分かる帳簿や、領収書、通帳、精算書など。（帳簿がない場合は、項目ごとに合計してください。）

二月十三日から杉森会館を皮切りに申告相談を行います。
日程表を確認のうえ、指定された会場で申告相談されるようにご協力願います。ただしどうしても都合がつかなく指定以外の会場で受付される場合は、予め税務課までご連絡ください。なお、税務署で受付される方は、案内通知等で日程等確認のうえ申告してください。
所得申告は、所得税や町県民税の計算基礎のほか、いろいろな公的負担金などの算出などにも使われますので大変重要です。誤りの無いよう前もって、源泉徴収票や必要な書類などを準備して臨まれるようお願いします。

【申告の必要がない場合】

次に当てはまる場合は、申告の必要はありません。

平成12年中に収入がまったく無かった場合

平成12年中の収入が給与だけで、勤務先で年末調整を行った場合

注）給与を2ヶ所以上から支給されている場合は、通常申告が必要です。

平成12年中の収入が公的年金だけの場合で、

・65歳以上の人は、年金収入が228万円以下の場合

・65歳未満の人は、" 108万円以下の場合

平成12年中の収入が給与と公的年金だけの場合で、給与は→1ヶ所だけで、勤務先で年末調整を行っている場合

年金は→・65歳以上の人は、年金収入が140万円以下の場合

・65歳未満の人は、" 70万円以下の場合

申告の必要がない場合でも、概ね10万円以上の医療費を支払った場合や、住宅資金の借入があった人などは所得税が還付になる場合がありますのでご相談ください。なお、医療費は保険等の補てん金控除後の額です。

税務署へ所得税の確定申告書を提出した人は、町へ申告する必要はありません。

町税の口座振替を始めます

平成13年度より、町税の口座振替ができるようになります。

振替対象税目→軽自動車税・固定資産税・個人町県民税（普通徴収）・国保税

取扱金融機関→秋田しんせい農協・羽後信用金庫・北都銀行・秋田銀行

振替依頼書の受付は間もなく開始します。

お問い合わせは税務課まで（69-2111）

書を提出していない場合は、事前調査書に記入して持参してください。
収支計算で申告する農家（葉たばこ生産農家を含みます）
農業所得計算ノートのある人は記入してきてください。ない人は、収入や経費が分かる精算書、通帳、領収書など。（できるだけ、項目ごとに合計してください。）

【その他】

保険の満期、土地建物等の売却、立木の売却などの収入があった人は、収入額や、売却などに伴って支払った登記費用など、経費金額の分かる書類が必要です。

《一般的なもの》
印鑑、生命保険料・損害保険料の控除証明書、医療費の領収書、寄付金の領収書など。（扶養家族の内、大学生などで住所が町内にない場合は、税務課では把握できないので、申告の時に忘れず申し出てください。）

住宅資金の借入があった人は、所得税の住宅借入金等特別控除を受けられる場合がありますのでお申し出ください。該当する場合は添付書類が必要になります。

仲間の輪を広げ楽しむ

国際結婚により誕生したカップルを対象とした交流会が、一月五日、湯楽里で行われました。

この会は、これまで誕生した夫婦に町が呼びかけ実施したもので、合わせて十一人が参加しました。

阿部町長を交えての

懇談会においては「税金の負担」や「労働環境」など生活に根ざした話題が和やかな中にも真剣に語られ、町に対しては制度のわかりやすい説明などについて要望が出されました。これに対し町長は、「生活していくうえでの共通の障害などについて、可能な限り支援して

国際理解を すすめる交流会

とおりです。

会長 遠藤春花（新町）

六九二〇八七

副会長 大坂エヴェリン（館合新田）

会計 菊地南実（館西）

監査 嶽石美華（五海保）

いく」と答えました。

また、これを機会に、自主的な親睦組織を立ち上げる気運が高まり同日、「彩虹橋（レインボーブリッジ）」が発足しました。会では今後、会員を募りながら具体的な計画を検討し、積極的な活動を展開していくこととしています。なお役員や連絡先は次の



集まった仲間で
楽しいレクリエーション



▲心の母校を胸に記念撮影

在京宿小会

母校はいつまでも心の中に

昨年十一月十九日、東京都北区滝野川会館で第十二回在京宿小会が開かれました。今回は会員五十八名が参集し、町からは教育長が出席しました。

一年に一度、ふるさとを偲び母校の名のもとに集まるこの会、母校の後身大琴小学校が今また統合の節目を迎えたこともあり、小学校の話題になると寂しさがよぎる様子でした。在校生のみんなには、統合のあとでも変わらず元気に頑張つて欲しいと応援の声が聞かれました。また、同会では、次回も大琴小卒業者の皆さん多数の参加を呼びかけています。

アイドルを さがせ!



佐藤紗弥ちゃん（下小屋）
（1歳）

お父さん：直人さん

お母さん：良子さん

お話し：良子さん

名前の由来は「繊細できれいという意味を持つ『紗』という字を選び、『さや』という名前に漢字をあてました」好きなものは「うどんが大好きです。うどんを食べるときは、遊ばないで上手に夢中になって食べます」

最近のエピソードは「最近保育園のすべり台で変わった遊びをしています。裸足で斜面を逆からのぼり、腹這いで滑り落ちてくるのが気に入っているみたいです」将来はどんな人に「元気できはきとした、活発な子になって欲しいです。ぜひ何かスポーツをやらせたいですね」

YG カンダ・ジェネレーション



新成ト

祝沢 佐藤孝子さん(20)

食べることが大好きで、給料が出たらさっそく焼き肉やお寿司を食べに行くという食いしん坊(?)。休みの日には友達と一緒に食べ歩きドライブをするそうです。人と会話するのが好きで、勤めて5ヶ月になるガソリンスタンドの仕事も、お客さんと接する毎日が楽しいとのこと。飲み会も大好き。休みが合えば友達数人で誘い合わせてワイワイ。また、動物園も大のお気に入り、去年は大森山動物公園に8回も行ったとか。

とにかく元気で、楽しく話をしてくれた孝子さんでした。

▼ぼんでんと恵比寿俵が神社に到着



▲各家でふるまいを受け、また元気に練り歩く



▲福をつかみ取ろうとまかれるもちに手を伸ばす

無事に奉納が終わった後は、参拝に訪れた境内の人達にもちやみかんなどがまかれ、大人も子供も夢中になって、一年の福を手に収めていました。

豊作を願う雪の上に植える
(長谷山傳治郎さん宅)



儀式のあとの御神酒
(長谷山昭一さん宅)

雪中田植え

豊作を願う真冬の田植え

一月十五日、冬の伝統行事の「雪中田植え」が、湯出野の長谷山傳治郎さんと長谷山昭一さんのお宅で行われました。

豊作を願うこの行事は、稲ワラとヨシと豆ガラ三種類を束ねて苗に見立て、十二支になぞらえて十二株を植え、そのあと別に束ねた稲ワラに火をつけて病虫害を払う願いとともに焼きます。両長谷山さんの家では一カ所で行っていますが、以前は田んぼのある場所へも行っていました。

今ではこの伝統行事を行っている農家は町内でも少なくなっているそうですが、昔は小正月に多くの家庭で行ったそうです。

時代の流れと共に農家の職業構成も変わり、また米作りの技術進歩が、自然や神への信仰を薄れさせてきたのではないのでしょうか。米の一粒を大切に作る気持ちを込めた行事に、古き時代が偲ばれます。

かけ声勇ましく ぼんでん奉納

御嶽神社祭典

一月五日、正月恒例行事の御嶽神社梵天(ぼんでん)奉納が行われました。

五穀豊穡と家内安全を祈願するこの祭り、今年は下通自治会、寺田自治会、秋田しんせい農協の三団体ががほら貝の合図と共に各地を出発し、「ジョヤサ、ジョヤサ」と掛け声をあげながら練り歩きました。

道中、一行が各家々の戸口に立ち寄ってぼんでん唄を唄い、大人にはお酒、子供にはお菓子などがふるまわれ元気づけられた勢いで山頂の神社を目指しました。

神社に梵天が到着すると、待ちかまえる側と奉納する側が激しくぶつかってもみ合い、梵天と恵比寿俵が次々に拝殿へ奉納されました。

ヘルシークッキング Vol.9

よりよき生活習慣で病気を予防する



「レバーのゴマ揚げ」(4人前)
 《材料》(大……大さじ、小……小さじ)
 豚レバー240g、しょうゆ大1杯強、みりん大1杯強、
 しょうが汁小2杯、いりごま20g、小麦粉大2杯半、サ
 ラダ油小4
 《作り方》
 豚レバーは水洗いし、うす切りにしてしょうゆ、しょう
 が汁につけておく。小麦粉と
 同量の水を入れてとき、レバ
 ーをつけ、ごまをまぶして油
 で揚げる。
 《アドバイス》
 貧血は老化を早め、様々な
 病気の下地となります。食事
 で予防するにはレバーが最も
 効果的です。特有の生くさみ
 を押さえ、家庭でおいしく食
 べられる料理をぜひどうぞ。
 (小松保健婦)

おとなり情報

～本荘由利の催物などを紹介します～

金浦町から

掛魚まつり(たらまつり)

2月4日(日) 9:30～13:00 金浦山神社・勢至公園広場
 南部漁業協同組合荷捌所から今年1番の大ダラを2人1組で
 担ぎ、金浦山神社に奉納。豊漁と海上安全を祈願する。

- 南部漁業協同組合荷捌所
タラの調理実演とタラの販売
- 勢至公園広場
タラ汁サービス(一杯200円)、特産品販売、タラ担ぎ
体験等

金浦町産業課 38-4301

岩城町から

天鷲冬まつり

2月11日(日)～12日(月) 9:00～16:00 天鷲村
 昔語り、屋台、体験コーナー(天鷲ぜんまい織、鍛冶、陶芸)
 天鷲村 74-2525

本荘市から

アトリオン室内オーケストラ メンバーによる室内楽の午後

3月18日(日) 14:00 本荘ポートプラザ・アクアパル
 一般1,000円(会員は800円) 中学生以下500円
 本荘ポートプラザ・アクアパル 22-5611

鳥海町から

ナイタースノーボード大会

2月17日(土)、3月17日(土) 鳥海オコジョランドスキー場
 16:30 選手受付
 17:30 開会式
 18:30 競技開始
 参加者1名当たり1,000円
 鳥海オコジョランドスキー場 58-2932

由利町から

由利高原雪まつり

2月11日(日) 10:30～14:00
 南由利高原青少年旅行村 ふれあいロッジ
 スノーモビル無料試乗会、親子で楽しめる雪上運動会、
 ちびっこジャンケン大会、雪中宝さがし など
 由利町企画商工課 53-2115

仁賀保町から

スポーツ講演会

2月10日(土) 仁賀保町民体育館
 12:00開場、13:00開演
 講師: シドニーオリンピック女子柔道48kg級金メダリスト
 田村亮子さん
 演題: 「最高でも金、最低でも金」
 入場料 中学生以下500円、一般1,000円
 仁賀保町公民館 37-3121

愛の輪

献血をありがとう

12月25日《成分献血》(敬称略)

役場前

小松貢治(館合新田) 小松喜恒(下
 通) 横山広喜(向田) 小松正二(下
 小路) 阿曾文彦(宇戸坂) 高橋重保
 (館合新田) 高沢稔(黒淵) 柴田和
 尋(須郷田) 工藤恵(中ノ沢) 佐藤
 和広(蔵) 佐々木信幸(大琴) 小松
 和子(山崎) 小松雄一(松柴) 小松
 信記(蔵) 遠藤晃(野田) 鈴木政雄
 (袖山)

●成分献血とは

血液中の血漿や血小板をいた
 だき、赤血球を体内に返してやる身
 への負担が軽い献血です。





知っておきたい Q&A

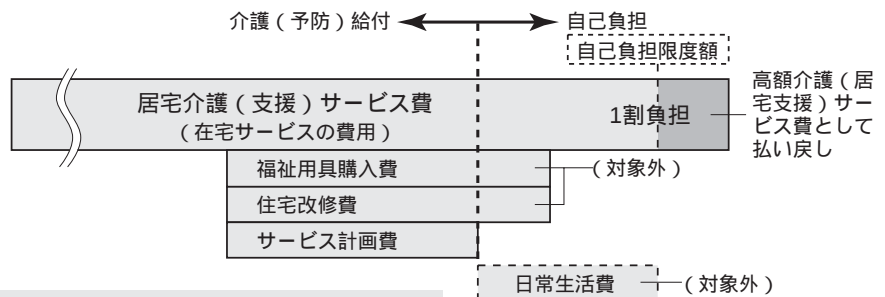
Q. 高額サービス費はどのようなときに払い戻されるのですか。

A. 要介護者が在宅サービスと施設サービスに対して支払った1ヶ月の自己負担額（1割負担の額）が、一定の上限額を超えたときに、高額サービス費として、超えた分が介護保険から払い戻されます。ただし、この自己負担額には施設における食事の負担額や保険給付外のサービスの利用者負担は含まれません。

■ 在宅の要介護者（要支援者）の場合

また、高額サービス費の上限額が所得に応じて次のように設定されています。

低所得者に該当しない人	37,200円
市町村民税世帯非課税者等	24,600円
老齢福祉年金受給者等	15,000円



高額サービス費の該当になる方には、月ごとの給付実績に基づき「高額サービス費のお知らせ」と支給申請書があらかじめ送付されます。申請の際には、必要事項を申請書に記入の上、自己負担額を支払った領収書をご持参ください。申請受付は、役場福祉課の窓口で行っています。

問合せ 福祉課福祉係
69-2118

ちびっこ大集合

元気にすくすく育ってま～す

～2歳児健診から～

むし歯のなかった子にはマークがついています



小野 靖佳ちゃん
大野（良雄さん）



佐藤 唯人くん
湯出野（友也さん）



伊東 秀磨くん
蔵（和人さん）



阿部 雄大くん
横渡（勝幸さん）



畠山 幸子ちゃん
上通（繁光さん）



小松 千尋ちゃん
石高（嘉明さん）



菊地 那奈ちゃん
大吹川（晃さん）



畠山 礼くん
寺田（俊明さん）



斉藤 遥佳ちゃん
石高（俊和さん）



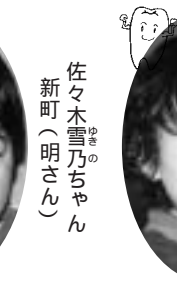
高橋 由香里ちゃん
新町（和美さん）



莊野 凌汰くん
下小路（康成さん）



佐々木雪乃ちゃん
新町（明さん）



小松 音仁くん
畑村（英之さん）

続・畜魂

～つれづれの記

第20話「進め、畜産」

鈴木龍太郎・文

■監視カメラ

町内で一番早く牛舎に監視カメラを取り付けたのは、鈴木和夫さん（沼）である。

私そのカメラで牛のお産を見たのは、設置から相当に月日の過ぎた、小雪が舞う平成十年の大寒の夕暮れだった。

鈴木さん宅の居間でおばあさんがテレビのチャンネルを牛舎に切り替えてくれ、一五〇メートルほど離れている畜舎内と牛、そして立ち働いている鈴木さん夫妻が映し出された。予想以上に明るい映像について、「コレダバ牛だけでなく、人の働き具合も監視できるシナ」と失礼千万なことを口走り、おばあさんに大笑いされた。

そのうち始まったお産や生まれた子牛の状況をカメラはよく映し

てくれる。「いいものだシナ」と言つと、「便利なものだナ」とおばあさんは答えた。確かに便利だ。

居間に居ながら常に牛の観察が出来るから、従来の気苦労は半減するだろ。特に高齢者や婦人方にとっては強い味方になると思つた。

やがて母子牛の世話が終わって帰宅した鈴木さんが、安産感謝の御神酒を口にしながら、「カメラで牛を見て変わったことがある場合は、携帯電話で若い人達に連絡して対処してもらえば、高齢の方でも牛飼いは出来る」等々、豪快に語る『これからの農業論』を聞いて、私の監視カメラ初体験の一日は終わった。

近頃は佐藤好男さん（律沢）が有線、佐藤貴志さん（八日町）が無線の監視カメラを取り付けて、作業効率を上げているそうだ。

牛舎のカメラは『監視』ではなく『愛牛カメラ』であり『生産向上カメラ』である。

■初乳銀行

誕生直後はじめて娑婆の空気を吸った子牛に大切なのは、出来るだけ早く母さん牛のオツパイに吸い付いて沢山飲むことだ。母牛がお産直後に出す乳は初乳といい、普通の乳とは違う成分構成で、これを飲むと驚くほど子牛は元気になる。

ところが、母牛が病気になるたり授乳を嫌つたりして（近頃人間

様にも多いようだ）、子牛が初乳を飲めない場合は大変に困る。

ある年の晩秋、お産直後の牛が起立不能になったとき、斉藤先生（当時共済組合駐在）とその母さんが懸命に手当をしている間に、私は島の畑山牧場へ初乳をお願いしに行った。幸いにももらい受けることが出来、とんぼ返りをして子牛に飲ませ、急場を切り抜けたこともあった。

あれやこれやで、初乳に苦労する和牛が案外に多かったため、平成四年に役場が冷凍庫を用意し、乳牛の余分な初乳を冷凍保存し必要な農家に無料で供給する『初乳銀行』をジャージー酪農の畑山克司さん（島）に委託した。

これにより、助かった子牛も多く和牛農家は安心した。ただ、喜ばれたのはよいが、保存容器の返還が少なく、畑山さんと役場畜産係の職員が容器になるペットボトルを集めるのに苦労していた。

銀行の維持運営は役場の支援と、畑山さんの協力によって支えられている。

また、保存初乳が不足したときは、大庭喜一郎さん（船木）と小野勲一さん（下吹）が、ホルスタイン初乳を快く補給してくれる。

東由利の初乳銀行は、役場と酪農農家が『お互いに頑張ろう』と和牛農家に贈る、声に出さない応援歌だと思つた。

季節を詠む

（せせらぎ句会）

書き入るる文字神妙に初暦

ファックスの漫画やりとり冬休み

下駄棚のサイズに合わぬ冬の靴

ままならぬ足をかばひて雪掻きぬ

塩蔵のわらびを雪に把み出す

刻も時足りてめでたき大旦

茶柱を信じたくなる喜寿の春

初社武運祈りし縄の鈴

新世紀煤け柱に注連飾る

支え合つ日差し求めてはや三日

成人を祝つ祖父母は初の旅

冬至湯に素直な膝の欲しきかな

悴かめる子の手乳房にひき入れぬ

針の孔遠くに据へて縫初

めでたさもなかばのよわひ去年今年

雪の径歩巾諭して年始め

寝てをりし牛を起たせて梳き始め

冬いなづま水瓶納屋に深睡り

遠山を墨染めにして冬日落つ

食細き二人に余る煮大根

高戸屋 小松 敏雄

上里 小野 石路子

五海保 嶽 石レイ

時雨山 吉川 葉子

横小路 小松 丈介

秋田市 嵯 峨義之

横渡 高橋 ヒデ子

久保 高橋 典三

小倉 遠藤 トミ子

蔵 阿部 澄子

蔵新田 小笠原 トミ

山崎 小松 良子

下小路 小松 メサ

蔵新田 小笠原 亮子

舟木 大庭 喜右衛門

蔵新田 小野 貞子

舟打場 高橋 民治郎

家ノ下 小松 正昭

中通 小松 順之助

横小路 宮野 源二郎

林業
だより

地域材の
利用促進

今から四十年前程前の木材価格は石当り一万円で、山からの収入で生活できたし、ミブラス林業として十分に成り立つ時代でした。今は木材価格が極端に下落を続け、森林への関心が遠のきました。家を建てるにしても、自家山林からのスギ材を使わず外材への依存が多くなり、国産材の自給率が二割（秋田県五割）と下がる一方です。このままでは未来の夢を託したスギ林は荒廃してしまいます。

私も山村の住民は、森林

と共生しながら森林の活力に支えられてきたし、これからは森林の価値を見直して生きていく事が大切ではないでしょうか。自分の先祖が、また自分が育てたスギ林から、昔ながらにこの木は柱この木は梁と立木を選んで伐倒し製材乾燥して、家を建てる事が地域材（東由利のスギ）の消費拡大につながり、用材生産基地へと大きく発展すると思います。また町などでも、公共施設への地域材利用を促進してもらいたいものです。

（町林業懇話会会長
佐藤恒悦氏）

ふるさと
むかしむかし

四四

親まさり

むかしむかし、智者鶴に金太という百姓がいました。日ごろ話の大げさなところから、むらのみんなは「ほら吹き金太」と呼んでいるのです。

このほら吹き金太のうわさを耳にしたのが、これまた金太に輪をかけてよな仙道のほら吹き名人の六助馬喰です。一つほら吹きくらべをしてみようと思いい、ある日山越えをして金太の家を訪ねました。

金太はいにく留守でしたが、留守番に鼻たれの息子と娘つこの二人がいました。

「仙道のお客さん、てで（父）もあば（母）もいねえ。この前の大風吹いだ時、八塩の山かたがて（傾いて）つかい棒に箸二本かつぎ、どしめで（急いで）出ていったあ。あばも大風で山の田の堤の底が破れでしまたどて（破れてしまい）、ほころび縫いに、糸と針持つて出がけでえったあ。」

娘つこはすました顔で言うのでした。

ほほお、さすが金太の娘つこ、と仙道の六助馬喰はたまげました。しかし、小さな娘つこに負

けてしまつては六助馬喰の名がすたる。そう心の中で思うと、おもむろに話しかけました。

「そつていえば、この前の風は大荒れしたものなあ。おらほの地藏院お寺の鐘つき堂にも大風あだつてな、つり鐘どこがさ（どこかへ）吹つ飛んでしまつて。村中大騒ぎだ。もしかしてお前さん方、見かけなかったかな。」と持ちかけた。

すると、先ほどまで小犬と遊んでいた息子の方が、鼻をすりながら答えた。

「ああ、あのつり鐘のことだな。屋根の端ぐちのクモの巣さひつかがつておつたな。おらあ姉と二人で、釣り竿の先コで突き落

とそつど思つてだば（思つていたら）、蜂とんできてつり鐘さ頭ぶつて、つり鐘ゴォーンと鳴つたつて。目まわして下さ落ちだ蜂見たばなあ、かね蜂だつてえ。」

子どもとは思えない息子の太ぼらに、名人といわれた六助馬喰も、ただただ口をあめぐりあけたまんまです。

親まさりという話があるが、この姉弟の親たちが帰らぬうちに、ほうほうの体で戻りの山道を急ぐのでした。

（泡ノ淵 横山又十郎氏（故人）の語りより再話）

（文と絵 石渡力造氏）



税 務 署



こたつを上手に安全に
（財）東北電気保安協会

径 級	単 価（石）	備 考
直材30cm上		
24～28cm	4,200	（乾燥材）
14～22cm	4,100～4,200	（乾燥材）
13cm下		
曲 り 材		

このところの冷え込みによる製材工程の落ち込みから、量産工場が14～22cmの乾燥材に買い気を見せた。反面、豊富な在庫からか生材は全く引き合いなし。

（平成十三年一月・平均価格）
四五年生・五五年生

木材共販市況



2月▶データ東由利

12 / 1 ~ 31

住民基本台帳 () は前月比

	月末人口	前月比
男(人)	2,467	0
女(人)	2,621	- 1
計(人)	5,088	- 1
世帯数(戸)	1,389	- 2

	月間異動人数	1月からの累計
出生(人)	2	46
死亡(人)	12	114
転入(人)	15	100
転出(人)	6	154

消防・交通

	月 間 発生数	1月からの累計
火災出動(件)	0	4
救急出動(件)	8	162
交通事故(件)	0	7
死亡(人)	0	0
傷者(人)	0	7
飲酒運転(件)	0	0
酒気帯び(件)	0	8

2月の行事^{予定}

- 8 議会全員協議会
- 11 建国記念の日
町民スポーツ祭(綱引き)
- 12 振替休日
- 17 参観日(東中)
- 17 ~ 18 雪ものがたり2001
- 18 2001バレーボールリーグ
決勝
- 25 第10回秋田県選抜雪上野球
大会
「特別企画:たけし軍団 対
地元選抜」
(東由利をおもしろくする
会)
- 27 ことぶき大学開校式
- 28 女性シンポジウム

東由利

郷土の野草

NO.192

ムラサキサギゴケ

(ゴマノハグサ科)

文・写真 小松忠正氏

日本全土、中国にまで分布するといわれる多年草で、畑地、路傍など、主として湿った所を好んで群生します。花茎は短く5〜10センチ前後で、気をつけて見ないと見すごしてしまいます。

葉は倒卵形で不揃いな鋸歯があり、根の方に多くつき、その間から走出枝を出して横に這ってふえます。花は長さ1.5〜2センチぐらいの唇形で、上唇は2裂し、下唇は3裂して黄色がかつた隆起した斑紋があります。和名は、花のつくりが鷺の頭に似ているのでこのようにいわれます。

戸籍の窓口

(12月21日〜1月20日届出)

●お誕生おめでとう

12/4 阿部 雪弥くん 貴浩 横渡

1/9 畠山 颯野くん 好宏 大吹川

●ご結婚おめでとう

12/22 八嶋 誠さん 黒 渕
工藤 洋子さん 本 莊 市

●こめい福をお祈りいたします

12/22 佐藤康一郎さん(80) 遠藤光男・義父・田代
12/25 三浦キチエさん(82) 柳橋喜良・義父・東光苑
1/41 高橋チヨエさん(89) 誠・母・館合新田

広報への掲載を希望しない方は、届出の際にお知らせください。

フィルム^のひとこま



1月19日に撮影した写真です。前日まで雪が降り続いたあとの久しぶりの青空でした。当日の朝はかなり冷え込み、役場から見える上里方面は、深い雪をかぶった山々と青空とのコントラストがとても綺麗でした。

(広報担当)

おれ

広報送付謝礼として次の方より金一封をいただきました。ありがとうございました。
小野四郎さん(西宮市)、佐藤正人さん(北海道)、鈴木正子さん(北海道)、佐々木栄男さん(所沢市)、小松光男さん(本荘市)、東由利出身者7名(代表阿部喜一さん(大潟村))
社会福祉協議会に次の方よりご芳志が届けられましたのでご紹介いたします。
畠山芳夫(秋田市)、工藤博行(蔵)、阿部重樹(岩館)、佐藤歌子(田代)、高橋誠(館合新田)、長谷山憲一(地下ノ沢)



ほっとひといき

新春の座談会において一般町民の皆さんから、議会の傍聴しやすい方法について話題が出ていました。具体的には夜間や休日の開催、日程の短縮や調整など。新庁舎の建設にあたり、当局でも議場の設計やありかたが議論されています。大内町のケーブルテレビなどは先進的な例ですが、例えば新庁舎の町民ホールにテレビを据え、議会の様子をモニターできるような設備は可能でしょう。情報公開やITが本番となる21世紀。新しい庁舎にも住民参加の機能を取り入れることが望まれています。